

< 報告要旨 >

女性就業者の通勤時間とその変化 ― パネルデータを用いた分析 ―

奈良県立大学 地域創造学部 坂西明子

本研究では、配偶者の有無、また子どもの有無などの世帯属性と、正社員、パートタイム・アルバイトなどの就業に関わる属性、仕事時間などの属性と関連付けて、通勤時間に関する分析を行った。

パネル調査の第1年度(1993年)に24～34歳であった女性が、その後第11年度(2003年)にまでに、年月を経るにつれて、家族の形態や職業生活、居住地といった生活状況に変化が生じているケースが多い。本研究では、これらの変化と、通勤時間や仕事時間、家事・育児時間などの1日の生活時間とのかかわりについて考察することを目的とする。

考察の結果、女性の就業は家族形態と関係が深いことが示された。多くの場合に、経年によって家族構成が変化しており、その変化と就業に関わる属性である職務、通勤、仕事時間と関連していると言える。

論文中の主要な図表から、上記の内容と関わりのある部分を抽出すると、以下の通りである。第1年度(1993年)の就業女性の平日1日の主な生活時間の平均値を示したのが、下の表である。配偶者なしの女性(ほとんどが未婚女性)については、常勤とパート・アルバイトとで、通勤時間にほとんど差がないが、有配偶者女性については配偶者なしの女性と比べて通勤時間が短いことに加えて、常勤と比べてその他の職務の場合には、通勤時間がかかなり短くなる。1日の家事・育児時間とも関連があると言える。

また、第11年度には、経年とともに配偶状態が変化しているものが多く見られるが、配偶者がなく子どももいないケースでは、大半が常勤で就業している。経年後の働き方と、家族構成の変化とは関係を有している。

表 配偶、職務形態別に見た平日1日の生活時間:通勤時間(分)、仕事時間(時)、家事時間(時)の平均値(1993年)

		常勤の職員・従業者	パート・アルバイト	嘱託その他
通勤時間 (分)	配偶者有り	52.24	31.90	44.71
	配偶者なし	71.69	70.20	96.32
仕事時間 (時)	配偶者有り	8.23	5.69	6.18
	配偶者なし	8.62	6.98	8.03
家事・育児 時間(時)	配偶者有り	4.31	5.71	6.38
	配偶者なし	0.63	1.93	0.73
サンプル数	配偶者有り	143	126	17
	配偶者なし	338	51	19